

「優雅な味わい」という意味合いの語として使っていると思われる。↓

補説④

『漢語大詞典』では「②懷抱。志趣。密集貌」と説明し、『晋書』「文苑傳、袁宏」の「宏有逸才、文章絕美、曾為《詠史》詩、是其風情所寄。」を引く。また、鮑照の「送從弟道秀別詩」の「以此苦風情、日夜驚懸旗」の句が、さらに白居易の「編集拙詩成二十五卷、因題卷末戲贈元九・李二十詩」の「一篇《長恨》有風情、十首《秦吟》近正聲」の句を載せる。

一方、「③指風雅的情趣、韻味」との説明もあり、元稹の「上令狐相公詩啓」の「常欲得思深語近、韻律調新、屬對無差、而風情宛然、而病未能也」の用例を引く。

○瘥せん

…いえる、いやす。「集韻」瘥、病除也。

(須藤 修一)

補説①

○97句目「垂迹」について

「垂迹」については、「語釈」の所で仏教的な意を紹介した。更にこれを補足する。

中村元著の『仏教語大辞典』によれば、「垂」は、「垂迹。あとを垂れる」の意。「迹」は、「①十六行相の一つとしての行の異訳。②業と煩惱とによって生死輪廻すること。③現れた姿。④教化のすがた、救いのすがた。⑤分別意識のこと」と訳されている。そして「垂迹」は、「救いのすがたを現わすこと。本地の対。